

離島振興計画の進捗状況〔浦戸諸島地域振興計画〕

	施策の内容	進捗状況
交通・通信	・魅力を全国へ情報発信し、市営汽船の利用客の増加を図る	・浦戸諸島公式HPや地域おこし協力隊で運営しているSNSにイベント情報等を掲載し、浦戸の魅力を随時発信し、市営汽船利用客の増加を図っている。
	・クリーンエネルギー船舶への更新も視野に、島民の利便性の向上と経営の合理化が両立する持続可能な航路運営	・既存船舶でも対応可能な取り組みについて今後検討予定。
	・定住促進、交流人口増加策など事業収入確保による収益改善	・市内小中学校等の校外学習に対し乗船料を助成。また、市外の小中学校も対象とした土日祝日長期休み等に乗船料が無料となる「子どもパスポート」事業を展開、交流人口増加の一助となっている。
	・イベント等の情報をSNS等により発信し、季節を通じたイベントを企画・実施した利用者の拡大	・地域おこし協力隊が随時イベントを実施しているほか、クルーズ等各種主催事業、市関係各課との共催のイベントを実施している。
	・必要かつ効率的なダイヤのあり方の検討	・令和6年度に策定の「第3期塩竈市交通事業経営健全化計画」に基づき、令和7年10月にダイヤ改正を行い、クロスダイヤを廃止しダイヤの効率化を図る見込。
	・浮棧橋を設置するなど、係留施設のバリアフリー化	・令和7年4月に島で唯一未設置だった朴島に浮棧橋完成予定。
	・生活基盤におけるICTの活用の検討	・光ファイバーを整備し、島民及び市の施設等の通信環境向上を図っている。
	・生活道路や排水施設の整備・維持管理	・寒風沢漁港及び野野島漁港の背後集落において、漁業集落排水施設により汚水処理を行っている。
産業振興	・通信環境の拡充・高度化を推進	・光ファイバーを整備し、島民及び市の施設等の通信環境向上を図っている。
	・浅海漁業の振興に向けた支援 ・漁業環境の保全や海洋環境の再生 ・漁家などの経営基盤の強化 ・水産物のイメージアップと全国へのPRによるブランド化や高付加価値化 ・施設整備などにより意欲と能力のある経営体の育成と経営の安定化 ・テレワークやサテライトオフィス整備	・塩釜市浅海漁業振興協議会から浅海養殖漁業振興対策事業として、浅海養殖等に係る各種試験事業に対し補助金を交付している。
就業促進	・多様な働き方が実現可能な地域を目指す ・地域特性を活かした事業の開拓、島内での就業場所と就業機会の創出	・サテライトオフィスとして整備可能な施設などについて、検討している。 ・今後検討予定。 ・地域おこし協力隊制度を活用し、浅海漁業の担い手を募集している。現在2名活動中、卒隊生5名は漁業に従事している。
	・新規就業者の住まいの確保 ・高齢者の就業促進	・今後検討予定。 ・シルバー人材センター等の就業に関する周知を実施。 ・あわせて福祉の視点からの地域活動の周知を促進（しおがま まぜっぺ・まざっぺシートなど）。
生活環境整備	・道路や上下水道の維持管理	・今後検討予定。
	・電力の安定供給やごみの適正処理	・生活ごみを週2回、粗大ごみを年2回収し、ごみの適正処理を行っている。
	・排水施設の処理の実態に合わせた施設のコンパクト化の検討	・令和2年から4年にかけて、寒風沢漁業集落処理場において、機械・電気設備の更新工事を行った。
	・防災設備や消防団施設など防災安全機能の充実に向けたハード整備	・令和6年度末に新たな石浜器具置場が完成し、運用を開始。令和7年度は朴島器具置場の移転事業を引き続き実施、年度末の完成を目指す。
	・情報通信環境や先端技術を応用した移動販売や無人・キャッシュレス店舗など、買い物弱者支援に関する環境整備	・令和5年度より、「買い物困難者」への生活支援として、島内で買い物ができる環境を整える買い物支援事業を実施している。
	・住民の基本的な生活・生業・安全の確保といった生活環境の整備のあり方の調査、検討	・今後検討予定。
	・既存の住宅資源を活用した定住促進 ・市街化調整区域の振興に必要な区域の見直し等の検討	・現在、居住している方々の住環境を充実させることを優先しつつ、浦戸地区の新たな移住・定住の増加が見込まれ次第、市街化調整区域の見直し等を含めて制度設計に係る検討を深めていく。

離島振興計画の進捗状況〔浦戸諸島地域振興計画〕

	施策の内容	進捗状況
医療確保	・住民の健康の維持、増進のための保健事業実施 ・高齢化に対応した安定的な診療体制を維持	・関係各課と調整を行っている。 ・週1回、浦戸診療所を開設し、医師による診療を行っている。
	・医師確保について、遠隔医療といったICTの導入検討	・令和6年度に電子レセプトによる医療会計システムを導入、オンライン資格確認システムを設置。
	・本土側への島民の通院環境及び消防艇による救急医療体制の充実、救急搬送の時間短縮	・塩釜地区消防事務組合の消防艇のほか、宮城県の「ドクターヘリ」により緊急医療体制が確立している。
	・感染対策の普及啓発、生活や経済への影響を最小限に止める感染症拡大防止	・関係各課と調整を行っている。
介護サービス確保	・老人福祉施設などの介護保険事業者が参入しやすい環境整備の調査検討	・訪問系サービス事業者が参入しやすい環境を整備するため、船賃や介護報酬への上乘せ助成を継続して行っている。老人福祉施設のニーズについては、令和8年度、次期介護保険事業計画の策定作業の中で検討予定。
高齢者などの福祉増進	・高齢者の交流スペースを活用した生活状況の把握と状況にあった支援	・各ステイ・ステーションや集会所等を活用した住民自主活動や、介護予防に関する健康講話などの際に、参加者の生活状況等の実態把握や、必要に応じた支援を実施している。
	・塩竈市浦戸いきいきふれあいサロン運営事業や介護予防教室の実施	・いきいきふれあいサロンの運営については令和元年度で終了。現在は各地区での自主活動の支援を実施しているほか、介護予防に関する健康講話等を各地区で実施している。
	・島外の家族等とつながるICT見守りシステム等の新たな見守り体制の構築	・「高齢者あんしん見守り支援事業」において、島外の家族等とつながるICT見守りシステム等の設置費や月額料金に対し補助する制度を構築しているが、現在、浦戸地区住民の利用者はいない。
	・地域のサークルによる各種活動を支援するための補助事業の展開	・補助事業を展開することで、各サークルの安定的な運営を支援した。
教育・文化振興	【学校教育】	
	・併設・特認校としての特色ある教育推進	・小中乗入れ授業の実践や複式授業の改善を通して、小中の連携を図り、9年間を見据えた学習指導を推進している。 ・浦戸諸島全体をフィールドとして観察や現地調査、外部講師による講話、インタビュー等の調査活動を実施。 ・児童生徒全員が役者としてステージに立ち、浦戸地域にまつわる伝説や歴史に基づいたシナリオで演劇発表を行っている。
	・学校の児童・生徒の通学にかかる市営汽船乗船料の経済的負担軽減	・島外から通学する児童生徒に対し、市営汽船の乗船料の2/3を補助し、保護者の経済的負担の軽減を図った。 ・浦戸地区に居住する高校生の通学に要する経費の2/3を補助し、保護者の経済的負担の軽減を図った。
	・地域の自然環境や食材を活かした環境教育、食育の充実	・豊かな自然や地域人材を活用し、探究的な学びと様々な体験活動を通して地域のよさ実感することができるよう教育課程を実施している。（アサリ採取、洋上体験、海苔すき体験・牡蠣むき体験等）
	・遠隔教育などによる教育の格差是正の検討	・今後検討予定。
	・既存施設を活用した教育関係団体の合宿や教育旅行の誘致	・今後検討予定。
	・NPO、ボランティアなどによる社会教育・文化活動支援	・浦戸探究科の学習における自然体験や産業体験活動等において、多くの方々からの支援をいただいている。
	【文化振興】	
	・文化・歴史的資産の復旧と保存	・令和6年度は寒風沢島日和山展望台にある「しほり地蔵」の解説標識を設置した。令和7年度は寒風沢島に「造艦の碑」の解説標識を設置予定。
	・島内に所在する文化財の把握、保存・活用するための計画策定	・令和4～8年の5箇年事業で塩竈市文化財保存活用地域計画を作成中。

離島振興計画の進捗状況〔浦戸諸島地域振興計画〕

	施策の内容	進捗状況
観光の開 発	・ 自然体験や漁業体験、牡蠣や海苔など豊かな食 材を活かした体験型観光や特産品の開発販売	・ 菜の花畑散策と海鮮ご飯を楽しむイベントを実 施。
	・ 様々な媒体を利用した観光情報の発信、新規観 光客の誘致とリピーター観光客の増加	・ 観光物産協会のHPやSNS等で情報発信を行って いるほか、浦戸の観光振興に特化した地域おこし協 力隊による情報発信を行っている。
	・ 海水浴場の海底調査を行い、野々島及び寒風沢 の海水浴場再開に向けた検討	・ 今後検討予定。
	・ 公衆トイレなどの観光施設の再整備	・ 今後検討予定。
	・ 既存施設を有効活用して、観光客やボランティ アなどの活動や各種団体のイベント開催を支援 ・ 防災集団移転跡地について、市街化調整区域の 区域の見直し等を検討し、観光資源として再生	・ 桂島と寒風沢の漁業等後継者育成施設（ステイ ステーション）の有効活用について検討中。 ・ 島民の方々の住環境の充実を最優先に、浦戸地 区の新たな移住・定住の増加が見込まれ次第、市 街化調整区域の見直し等を含めて制度設計に係る 検討を深める。桂島の防災集団移転跡地におい て、令和5年度から一部芝生化を行っており、令和 7年度にはその場所を活用したキャンプイベントを 実施した。
国内外と の交流促 進	・ 地域資源を活かした滞在交流型観光の推進	・ みちのく潮風トレイルと連動し、インバウンド を中心としたメニューづくりを検討中。
	・ 多様な活動の支援や教育旅行の誘致	東北復興ツーリズムネットワークと連携し、教育 旅行誘致を行っている。
	・ 市営汽船の利便性の向上及び高校生の就学支援	・ 翻訳ツールの活用や英文パンフレットの配布を 行っている。
	・ 特別名勝松島の保存管理、交流促進のための効 果的な施策の検討	・ 令和5年度より、特別名勝松島の現状変更許可等 の事務が塩竈市に委譲され、迅速な手続きが可能 となった。
自然環境 の保全・ 再生	・ 枯死した樹木の伐採、感染予防薬剤の散布や植 林など、松くい虫の被害予防	・ 毎年、国や県の補助金を活用し、伐採、薬剤散 布、樹幹注入を行っている。
	・ 植林については、耐性松を植樹するなど、強い 個体による原型復旧	・ 今後検討予定。
	・ NPO、ボランティア団体の受け入れなどを通 じ、多様な主体との協働による自然環境の保全と 再生	・ 浦戸振興や自然環境美化に寄与するボランティ ア団体に対し乗船料の割引を行っている。
エネル ギー対策 推進	・ 再生可能エネルギーによる災害に強い自立・分 散型エネルギーシステムの導入の検討	・ 宮城県が実施し、本市が広報参画している「家庭 用太陽光発電設備等共同購入事業（みんなのおう ちに太陽光）」のチラシを全戸配布し、広報・周 知を図っている。
	・ カーボンニュートラルの施策やブルーカーボン の持つ役割を整理し普及、活用の検討	・ 本市環境基本計画改定に合わせて検討を予定し ている。
	・ 石油製品の価格低廉化支援	・ 島民が日常生活で使用する燃料（灯油、重油、 軽油）を輸送する宮城県漁業協同組合浦戸支所 と、島民所有の軽自動車の車検にかかる運搬費に ついて補助金を交付。
防災対策	・ 防災行政無線や災害時FMラジオ放送、SNS などを活用した情報収集伝達手段の確保	・ 令和7年度は本土を含めた防災行政無線子局の更 新事業を実施中。防災ラジオの有償貸与事業も継 続し、引き続き防災力向上に努める。
	・ 避難路及び災害時の緊急物資輸送ルート of 整備	・ 引き続き野々島の避難路整備の代替案を検討し ている。
	・ 指定避難所や一時避難場所となるコミュニテ ィセンターの整備	・ 指定避難所や一時避難場所については、防災会 議での議論が必要となるため、慎重に検討を行 う。
	・ 備蓄品や備蓄倉庫、避難所の自家発電装置、飲 料用貯水槽などの整備	・ 引き続き島内状況の把握に努め、ニーズに応じ た整備を行う見込み。
	・ 再生可能エネルギーを活用した自立・分散型 のエネルギーシステムの導入	・ 仙台市主催のBOSAI-TECHを通じ、県内の自治体 状況を状況確認を行う。また、太陽光発電を行え るポータブルバッテリーを市内指定避難所へ配備 できるよう事業計画を図っている。
	・ 塩竈市地域防災計画及び塩竈市津波避難計画の 改訂	・ 第五次被害想定調査結果を受け、令和6年度末 に改訂実施。関係各所に計画を配布し、周知に努 める。

離島振興計画の進捗状況〔浦戸諸島地域振興計画〕

	施策の内容	進捗状況
人材の確保・育成	・新たな産業の創出や伝統的な地域産業の継続、振興を行うため島外からの人材誘致	・地域おこし協力隊制度を活用し、浅海漁業の担い手を募集している。現在2名活動中、卒隊生5名は漁業に従事している。
	・ボランティアやNPO団体などの多様な活動を支援し、多方面から地域振興の人材確保	・今後検討予定。
	・離島振興のための専門的な人材の育成	・島づくりの新たな担い手を確保することを目的に、島に住み、島の一員として、島の魅力発信、地域資源を活かした加工品開発など様々な事業に取り組む地域おこし協力隊を現在2名任用している。
感染症発生時等の配慮	・感染拡大防止策や医療体制の整備強化	・コロナ禍においては、浦戸診療所でコロナワクチンの接種業務を実施。
	・他の地域と同様の生活の安定、福祉の向上に係るサービスが享受できるよう、必要な医療提供体制等の確保	・週1回、浦戸診療所を開設し、医師による診療を行っている。
小規模離島への配慮	・島民が日常生活を営むために必要な環境維持等への十分な配慮	・令和5年度より、「買い物困難者」への生活支援として、島内で買い物ができる環境を整える買い物支援事業を実施している。